集中 OPINION

古川 元久

衆議院議員
国土交通委員会委員、災害対策特別委員会委員、
国民民主党国会対策委員長

人口減少時代での医療と防災とは 持続可能社会の実現へ構造改革を

今、日本の社会は大きな転換点を迎えている。長く続いた金融緩和の出口が見え始め、経済を取り巻く環境が変わろうとしている。一方で、少子高齢化によって人口が減少していく中、働き手不足が深刻になりつつある。医療界でも「医師の働き方改革」が始まったが、医師不足を解消し、医療サービスの低下を防げるのか、先行きは見通せない。国民民主党の衆院議員、古川元久氏は、民主党政権時代は内閣官房副長官や国家戦略担当大臣等を歴任し、現在は党国会対策委員長の要職にある。医療界や日本社会の課題を議論する「日本の医療の未来を考える会」の国会議員団メンバーでもある古川氏に政治信条や医療界の課題等について話を聞いた。

――政治の道を志した理由を教えて下さい。

古川　切っ掛けは30年前、米・コロンビア大学に留学をしていた頃です。当時、日本ではバブルが崩壊して、日本経済の先行きの見通しは暗かった。でも今とは違い円高で、アメリカの生活は日本よりずっと良かった。そこで、もう日本には帰らずにウォール街にでも転職して、このままアメリカに住もうかな、という気持ちに傾いていました。そんな時にふと、留学前にロータリークラブの方達に開いて頂いた壮行会で、建築家の芦原義信先生がご自身の留学時代の話をして下さった事を思い出したのです。その時先生は、「自分が留学をしたのは戦後のアメリカ占領時代。1ドル360円の時代で、何でも高かった。アメリカでは、日本には未だ無かった冷蔵庫が家庭に在り、中には食べ物がふんだんに詰まっていた。ある時、電話ボックスに財布を忘れたが、翌日行ってみるとお金も取られず、そのまま残っていた。当時の日本は食糧難で、治安も悪かった時代。そんな時に豊かで安全なアメリカ社会を見て、いつか日本もこうした社会にしたいと思いながら帰って来て頑張った事を思い出した」と仰ったのです。その言葉が蘇り、自分が今[illegible]な生活が出来るのは戦後の焼け跡の中から日本[illegible]興させた先人達の努力[illegible]物と気付きました。[illegible]して[illegible]豊かな日本を、自分達の世代[illegible]い、自分達の世代も頑張って[illegible]次の世代にバトンタッチした[illegible]ばな[illegible]思いが[illegible]私の政治の原点に有[illegible]す。

――現在は国[illegible]主党に所属されています。

古川　元々無[illegible]属で活動していましたが[illegible]最初の選

続きを読むには購読が必要です
詳しくはホームページをご覧下さい